

夢のような3か月間

現代中国学部3年
大西 佑典

マレーシアでの現地プログラムを振り返ると本当にたくさんの思い出があります。その中でも深く思い出に残っていることが2つあります。

1つ目は、語学パートナーとの交流です。語学パートナーとは、現地プログラムに参加している学生が語学力向上のため、会話をしたり、一緒に遊んだり、学習のサポートをしてもらったりするパートナーのことです。語学パートナーとなるのは留学先の南方大学学院の学生です。私は現地プログラム中ほぼ毎日と言っていいほど語学パートナーと会っていました。中国語や英語を教えてもらったり、夜ご飯におすすめのお店に連れて行ってもらったり、一緒にショッピングをしたり、語学パートナーのおじいちゃんの家に行ってもらったり、たった3ヶ月で数え切れないほどの思い出ができました。語学パートナーなしでは私の現地プログラムの思い出は語れません。私の拙い中国語と英語を理解してくれて、マレーシアのことをたくさん教えてくれた語学パートナーには感謝しかありません。

2つ目は、クラブ活動に参加したことです。カンフークラブ、散打クラブ、サッカークラブなど様々なクラブ活動に1人で参加しました。そのおかげで、マレーシア人の友達がたくさんできました。日本人がいないコミュニティーに1人で参加することは少し怖かったですが、どのクラブの人も丁寧に教えてくれて嬉しかったです。スポーツには、言語や文化を超えて人と人をつなぐ力があると感じました。

マレーシアでの現地プログラムを通して、コミュニケーションの大切さと難しさを実感しました。中国語や英語が上手く話せない中で、自分の考えていることを相手に伝えるのはとても

難しかったです。しかし、自分の中国語や英語を相手に理解してもらえるととても嬉しく、自信ができました。上手く伝えることができなくても伝えようと努力する姿勢が大事だと思いました。今後も継続して中国語を学習し、次回マレーシアに行く時には先生や語学パートナーを驚かせたいです。



マレーシアの家庭料理



散打クラブ